

容り法見直しと2R促進を求める【国会請願署名】採択！

「容器包装リサイクル法を見直し、発生抑制と再使用を促進するための仕組みの検討を求める」国会請願署名は、8月31日の国会で採択されました。

- ① 税負担でリサイクルを進める容器包装リサイクル法は、見直しが必要である。
- ② リサイクルよりも、リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）を促進させる仕組みが必要である。

→国権の最高機関である「国会」で認められました！

環境委員会(衆・参)で、10年ぶりの請願採択！

署名に協力いただいた皆さま、ご参加、ご賛同いただいた皆さま、ありがとうございました。
 容器包装の3Rを進める全国ネットワーク（以下、3R全国ネット）が呼びかけた「容器包装リサイクル法を見直し、発生抑制と再使用を促進するための仕組みの検討を求める」国会請願には、おかげさまで全国から衆参あわせて90件、394,165筆の署名が提出されました。
 請願の審査においては、3.11の東日本大震災や原発震災という未曾有の国難への対応に加え、延長された会期末における首相交替という激動の中、請願の採択が危ぶまれておりましたが、8月31日、無事、衆議院環境委員会と参議院環境委員会で採決の結果、全会一致で採択されました。まさしく、“市民の思い”が国会に届いた瞬間です。

これまでの国会請願は、昨年の政権交代後の国会（176回）でこそ、26件の請願が採択されましたが、それ以前の174回通常国会や175回通常国会はゼロ件で、177回の今通常国会も狭き門といわれてきました。が、超党派で紹介議員を獲得した私たちの国会請願は、衆議院環境委員会に付託された15種（150件）の中で唯一採択された請願1種（69件）、参議院環境委員会に付託された16種（77件）の中で唯一採択された請願1種（21件）となったのです。

* 今回の衆議院には、合計246種（2752件）の請願が出されましたが、その内、採択されたのは、8種（258件）でした。その内の1種（69件）が私たちの請願です。尚、「種」とは請願件数の数を表し、件は紹介議員を通じて受理された件数を表します。同じく参議院には、合計269種（2037件）の請願が出されましたが、その内、採択されたのは7種（56件）でした。その内の1種（21件）が私たちの請願です。

市民の思いが、見直しの動きを加速

環境委員会で「採択の上、内閣に送付すべきもの」と決定された私たちの請願は、衆議院と参議院の本会議で委員長報告を受け、採択の上、内閣に送付することが採択されました。（国会閉会后、請願を紹介いただいた議員には、その審査結果が通知されることになっています。）

基本的には、国会で採択された請願の内容には、国会で制定される法律と同じような“法的拘束力”はありません。が、国権の最高機関たる国会が認めただけですから、その意義はたいへん重いと考えられます。具体的には、送付を受けた内閣から毎年2回、その処理経過が議院に報告されることとなります。まずはこれからの半年間で、どれだけ具体的に検討されるのか、注視されます。

そもそも、2010年に私たちが請願署名の運動を始めた頃は、麻生政権時の閣議決定により「容器包装リサイクル法（以下、容り法）の見直しは2013年」とされていたため、省庁や事業者などからは、“容り法の見直しはまだまだ先のこと”と言われていました。ところが、今秋にも省庁による論点整理がはじまり、2012年には見直しのための審議会が立ち上がると言われていました。

私たちの国会請願署名の運動が、容り法見直しの動きを加速させたのです。

今度こそ、しっかり、きちんと直そう！容器包装リサイクル法

実は、容り法は5年前の2006年にも見直されています。が、この時は、“1R（リサイクル）が1.5R”になったに過ぎない、まったく不十分な結果に終わってしまいました。このため、当時の改正運動を進めた「容器包装リサイクル法の改正を求める全国ネットワーク（発足は2003年6月）」は、次の法改正でこそ、“2R（リデュース・リユース）を優先する抜本改正”を実現しようと、2006年7月から「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」として新たな運動に取組み、今回の請願署名の運動をすすめてきました。

このような経過を踏まえると、今回の請願採択は、10年近い運動における大きな一歩です。今度こそ、全国の市民の力をあわせて、容り法を抜本的に改正し、市民の望む持続可能な社会を実現しましょう。

3R全国ネット運営委員会では、まず国の審議に先立ち、市民が望む「容器包装リサイクル法の具体的な改正案」を検討するため、連続学習会を開催します。次に、賛同いただいた自治体首長や自治体団体（全国都市清掃会議、全国市長会、全国町村会、全国市議会議長会など）との連携をはじめます。そして、改正市民案を取りまとめ、事業者団体、学識者等との意見交換をすすめる計画です。

ぜひ全国の皆様も、署名に賛同いただいた市民や団体、自治体の方々に請願結果を伝えて下さい。また、紹介いただいた国会議員には御礼の方、法改正の実現に向けた、更なるご協力をお願いしてください。そして全国津々浦々から、法改正を求める“大きなうねり”を起こしてください。

請願の採択を受けて、見直しに反対する圧力はますます高まります。これからの第二ステップでは、これまで以上に市民が力をあわせることが大切となります。このため、請願採択を踏まえ、来る10月25日（火）、緊急で院内集会を開催します。ぜひ、ご参加下さい。



■ 緊急院内集会 『(仮称)さあ、始めよう！—容り法の役割分担の見直し—』

- 日時 10月25日（火） 14:00～16:30（13:30開場）
- 場所 衆議院 第2議員会館
- 申込 3R全国ネット事務局までメールかFAXで。
⇒詳しくは、今後のメールニュースか3R全国ネットのホームページでご確認ください。

* 10/5（水）の連続学習会第1回（講師：森下哲氏/環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室室長）も、どうぞ、ご参加下さい（案内チラシ参照）。

2010年10月7日にキックオフ集会を開催しました。



3R全国ネットは、国会に近い星陵会館で「キックオフ集会」を開催し、全国から200人あまりの市民、団体が集いました。残念ながら、当日は衆議院の本会議と重なってしまいましたが、多くの参議院議員に駆けつけて戴き、来年の国会での請願採択を目指して取り組んでいくことを確認しました。

ご挨拶いただいた議員は、民主党の大河原雅子さん、共産党の田村智子さん、公明党の加藤修一さん、みんなの党の水野賢一さん。それぞれ、請願の採択に向けて、国会内で尽力する旨のスピーチをいただきました。衆議院議員の自民党の山本公一さん、河野太郎さん、共産党

の塩川鉄也さん、社民党の福島瑞穂さんからは、メッセージをいただきました。

容器包装リサイクル法を見直し、発生抑制と再使用を促進するための仕組みの検討を求める請願

一 請願の趣旨

容器包装リサイクル法（「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」）は、1995年に容器包装ごみをリサイクルするために制定されました。その後、法附則第三条に基づいて、2006年に一部改正されたのですが、衆議院環境委員会で19項目、参議院環境委員会で11項目もの附帯決議が採択されたことに示されるなど、多くの課題を抱えたままの成立となりました。

このため、ごみ排出量は“高止まり”のまま、環境によりリユース容器が激減し、リサイクルに適さない塩素系容器包装が未だに使われているのが実態です。

根本的な問題は、自治体が税金で容器包装を分別収集しているため、リサイクルに必要な総費用のうち約9割が製品価格に内部化されていないことにあります。このため、容器包装を選択する事業者には、真剣に発生抑制や環境配慮設計に取り組もうとするインセンティブ（誘因）が働かず、ごみを減らそうと努力している市民には、負担のあり方についての不公平感が高まっているのです。

今日、地球温暖化防止の観点からも、資源の無駄遣いによる環境負荷を減らすことが求められています。レジ袋などは、先進国だけでなく、アジアの国々でも、無償配布禁止の法制化や課税など国レベルの対策が取られています。

我が国においても、一日も早く持続可能な社会へ転換するため、下記の事項について請願致します。

二 請願事項

1. 容器包装リサイクル法の役割分担を見直し、分別収集・選別保管の費用負担のあり方を検討する。
2. リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）を促進するため、次のような様々な課題への対応について検討する。
 - ① レジ袋など使い捨て容器の発生を抑制し、リユース容器の普及を促す。
 - ② 容器包装リサイクル法の対象範囲を拡大する。
3. 製品プラスチックのリサイクルを進める仕組みのあり方について検討する。

2011年5月30日(ごみゼロの日)に院内集会を開催しました。



530集会の開催は、東日本大震災による甚大な被害を慮り、その開催の是非について運営委員会でも議論がありましたが、今回の署名には被災された方々の署名も含まれることから、「3.11後の(省エネ・省資源)ライフスタイルを考え2Rを進めるための検討会議」として開催することとしました。

集会には各地の市民、団体が参加し、総勢で120名以上となりました。また国会議員も多数参加いただき、市民の思いを伝えることができました。出席いただいた国会議員は、石毛えい子さん(衆・民)、田島一成さん(衆・民)、中屋大介さん(衆・民)、江端貴子さん(衆・

民)、福島みずほさん(参・社)、水野賢一さん(参・み)。秘書が参加した国会議員は、大谷信盛さん(衆・民)、藤田一枝さん(衆・民)、小野塚勝俊さん(衆・民)、森岡洋一郎さん(衆・民)、山本公一さん(衆・自)、高木美智代さん(衆・公)、大河原雅子さん(参・民)、有村治子さん(参・自)です。

【紹介議員一覧 2011年9月9日現在】()内の数値は紹介件数。

	民主党	自由民主党	公明党	日本共産党	社会民主党	新党日本	無所属
衆議院議員	石森久嗣	井上信治(2)	赤松正雄	塩川鉄也	阿部知子	田中康夫	佐藤ゆうこ
	江端貴子(2)	伊吹文明(4)	池坊保子		重野安正(2)		
	大泉ひろこ	今村雅弘	石井啓一		中島隆利(2)		
	太田和美	北村誠吾	漆原良夫		吉泉秀男		
	川島智太郎	小池百合子(2)	江田康幸(2)				
	城井崇	河野太郎	遠藤乙彦				
	木内孝胤	近藤三津枝	斉藤鉄夫				
	木村たけつか	下村博文	坂口力				
	工藤仁美	竹本直一	高木美智代				
	竹田光明	田中和徳(2)	富田茂之				
	田島一成(4)	谷畑 孝	古屋範子				
	手塚仁雄	西村康稔					
	中野譲	古川禎久					
	中屋大介(2)	松浪健太					
	西村智奈美	吉野正芳(2)					
	藤田一枝						
村井宗明							
森岡洋一郎							
森山浩行							
横光克彦							
参議院議員	民主党	自由民主党	公明党	みんなの党	社会民主党		
	大河原雅子(3)	岡田広	荒木清寛	川田龍平	福島みずほ		
		長谷川岳	加藤修一	水野賢一(2)	又市征治		
		山谷えり子	白浜一良		山内徳信		
		吉田博美	松あきら		吉田忠智		
	若林健太						

【意見書採択自治体一覧】()は趣旨採択。

北海道	北広島市、恵庭市、岩見沢市、小樽市、当別町、石狩市
青森県	青森市
福島県	会津若松市、福島市、郡山市、会津坂下町
新潟県	三条市、柏崎市、新発田市、小千谷市、十日町市、燕市、五泉市、上越市、佐渡市、魚沼市、南魚沼市、阿賀町
栃木県	下野市、宇都宮市
埼玉県	嵐山町、北本市、日高市、蕨市、越谷市、上尾市、寄居町、鶴ヶ島市、飯能市、草加市、吉川市、朝霞市、所沢市、坂戸市、さいたま市、蓮田市、(熊谷市)
千葉県	柏市、習志野市、我孫子市、船橋市、木更津市、野田市、佐倉市、袖ヶ浦市
東京都	小金井市、清瀬市、立川市、三鷹市、日野市、小平市、稲城市、多摩市、町田市、東村山市、狛江市、調布市、府中市、(品川区)、(荒川区)、(新宿区)
山梨県	北杜市、甲斐市、上野原市
静岡県	富士宮市、浜松市、伊豆市、三島市、焼津市、御殿場市
愛知県	豊田市、東郷町、岡崎市、長久手町、みよし市、尾張旭市、日進市、豊明市
大阪府	堺市、和泉市、大阪狭山市、吹田市
兵庫県	川西市、尼崎市

【賛同自治体首長一覧】

石狩市長、会津若松市長、会津坂下町長、遊佐町長、南魚沼市長、柏崎市長、下野市長、小山市長、古河市長、三芳町長、日野市長、生駒市長、奈良市長、尼崎市長、津久見市長、九重町長、大川市長、筑後市長、大木町長、綾町長、